

平成23年度 病害虫発生予察情報

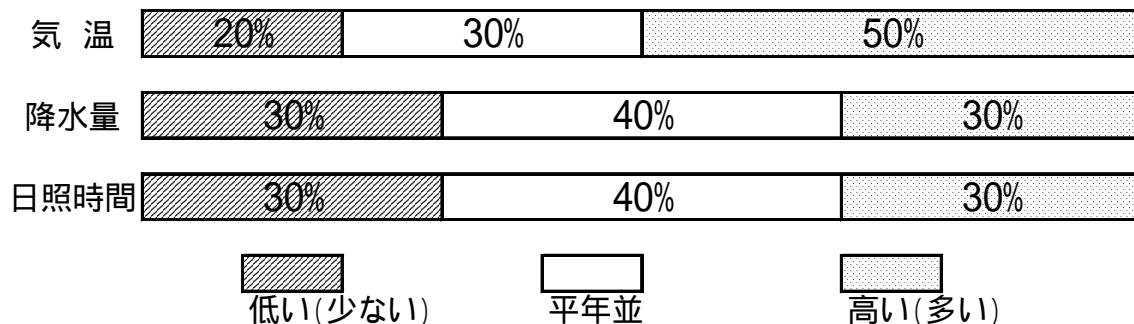
発生予報第7号（8月後半）

平成23年8月11日
島 根 県

予報の概要

区分	農作物名	病害虫名	予想発生量
普通作物	イネ	穂いもち	やや少ない
		紋枯病	少ない
		白葉枯病	平年並
		ツマグロヨコバイ	平年並
		セジロウンカ	やや少ない
		トビイロウンカ	やや少ない
		コブノメイガ	少ない
		斑点米カメムシ類	やや多い～多い
		黒斑病	やや少ない
		シンクイムシ類	平年並
果樹	ナシ	ハダニ類	平年並
		カメムシ類	少ない
		うどんこ病	やや少ない
		カキミガ	平年並
	カキ	カメムシ類	少ない

中国地方1か月予報(8月6日～9月5日・広島地方気象台8月5日発表)
< 向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%) >



A. 普通作物

1) イネ

(1) 穂いもち

予報内容

発生地方

発生量

予報の根拠

県内全域

やや少ない

伝染源となる葉いもちの発生量は発病株率5.3%（平年18.9%）と平年に比べてやや少ない（7月下旬現在）。

8月第1～2半旬のBLASTAMによる感染好適日の出現状況は1回（平年3.3回）とやや少ない。

穂いもちの初発生は8月3日（平年8月5日）と平年並みである。

向こう一か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) 紋枯病

予報内容

発生地方

発生量

予報の根拠

県内全域

少ない

7月下旬の定点調査における発生圃場率は8.6%（平成34.9%）、発病株率は1.0%（平成6.3%）で、全般の発生量は平年に比べて少ない。
向こう一か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(3) 白葉枯病

予報内容
発生地方 常習発生地
発生量 平年並

予報の根拠
全般の発生量はほぼ平年並みである。
向こう一か月の気象は本病の発生を助長する要因とはならない。

(4) ツマグロヨコバイ

予報内容
発生地方 県内全域
発生量 平年並

予報の根拠
予察灯での誘殺数は平年に比べてやや少ない。
8月上旬の払い落とし調査では、捕獲数は17.3頭/25株、発生圃場率は96.4%で発生量は平年並みである。
8月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(5) セジロウンカ

予報内容
発生地方 県内全域
発生量 やや少ない

予報の根拠
予察灯への飛来は6月下旬～7月上旬に認められたが、以降まとまった飛来は認められない。8月上旬までの誘殺数は平年に比べて少ない。
8月上旬の払い落とし調査では、捕獲数は4.3頭/25株、発生圃場率は78.6%で発生量は平年に比べてやや少ない。
8月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(6) トビイロウンカ

予報内容
発生地方 県内全域
発生量 やや少ない

予報の根拠
予察灯への飛来は8月上旬まで認められない。
8月上旬の払い落とし調査では、捕獲数は0頭/25株、発生圃場率は0%で発生量は平年に比べてやや少ない。
8月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(7) コブノメイガ

予報内容
発生地方 県内全域
発生量 少ない

予報の根拠
予察灯への飛来は8月上旬まで認められない。
8月上旬の巡回調査では被害株率0%、発生圃場率は0%で発生量は平年に比べて少ない。
8月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(8) 斑点米カメムシ類

予報内容
発生地方 県内全域
発生量 やや多い～多い

予報の根拠
8月上旬に出穂している圃場ですくい取り調査を行ったところ、平均頭数は3.0頭/20回振りで平年並みであるが、発生圃場率は58.8%と依然として高い。特にホソハリカメムシの発生が多い圃場が散見される。
予察灯でのアカスジカスミカメの誘引数は平年に比べてやや多い。
8月の気象は本種の発生に助長的である。
7月27日付臨時情報第1号参照

B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

予報内容
発生地方 ナシ（二十世紀）栽培地帯
発生量 やや少ない

予報の根拠

7月28日の巡回調査では、発病葉率は10.1%（平年14.3%）であり、平年と比べてやや少ない。

向こう一か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) シンクイムシ類

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯

発生時期 やや遅い

発生量 平年並

予報の根拠

フェロモントラップ（安来市、出雲市）でのナシヒメシンクイ第1世代の雄成虫の誘殺盛期は平年に比べやや遅く、誘殺数は平年並みである。

向こう一か月の気象は本種の発生を助長する要因とはならない。

(3) ハダニ類

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯

発生量 平年並

予報の根拠

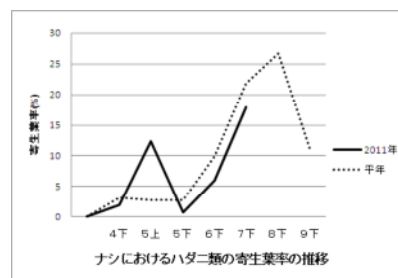
7月下旬の巡回調査では寄生葉率17.9%

（平年21.8%）で平年並みである。

向こう一か月の気象は本虫の発生を特に助長する要因とはならない。

クワオオハダニが多い圃場も散見される。

クワオオハダニに効果の低い薬剤があるので薬剤の種類には注意が必要である。



(4) カメムシ類

予報内容

発生地方 ナシ栽培地帯

発生量 少ない

予報の根拠

予察灯（出雲市）での8月第2半旬までの誘殺数は84頭（平年1555.8頭）で平年に比べ少ない。

向こう一か月の気象はカメムシ類の発生を助長する要因とはならない。

2) カキ

(1) うどんこ病

予報内容

発生地方 カキ栽培地帯

発生量 やや少ない

予報の根拠

7月25日の巡回調査では、発病葉率は0.7%（平年5.6%）であり、平年と比べてやや少ない。

向こう一か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) カキミガ（第2世代）

予報内容

発生地方 カキ栽培地帯

発生量 平年並

予報の根拠

第1世代幼虫による芽および果実の被害は平年並みであった。

向こう一か月の気象は発生を特に助長する要因とはならない。

(3) カメムシ類

予報内容

発生地方 県内カキ栽培地帯

発生量 少ない

予報の根拠

予察灯（出雲市）での8月第2半旬までの誘殺数は84頭（平年1555.8頭）で平年に比べ少ない。

7月下旬の巡回調査ではカメムシの被害果を確認していない。

向こう一か月の気象は本虫の発生を特に助長する要因とはならない。

農薬の安全使用の徹底を！

- ・ 農薬の使用基準（適用作物、使用量又は濃度、使用時期、総使用回数）を遵守する。
- ・ 防除履歴（使用日時と場所、作物名、農薬の種類と量）を記帳する。
- ・ 農薬散布時には周辺作物に飛散（ドリフト）しないように注意する。
- ・ 有効期限切れ農薬は使用しない。
- ・ 散布後は散布器具の洗浄を徹底し、空き容器は正しく処理する。
- ・ 病害虫の発生状況を把握し、必要最小限の農薬使用に努める。

病害虫防除所のホームページでは発生予察情報の他、各種情報を掲載しています。
フジコナカイガラムシ防除適期の予想

島根県病害虫防除所

TEL 0853 - 22 - 6772

FAX 0853 - 24 - 3342

ホームページ

<http://www.pref.shimane.lg.jp/nogyogijutsu/byougai tyuu/>